

学生が感じ、考え、それを学びにつなげる教育と学習支援**■パネリスト**

秦 敬治(追手門学院大学 学長補佐, 教育開発センター長, 追手門学院大学リーダー養成コース長, 基盤教育機構 教授)

1986年3月に西南学院大学商学部卒業後、学校法人西南学院にて大学職員を20年間務め、2006年4月から愛媛大学にて大学教員に転身。愛媛大学では、教育企画室副室長としてFD・SDの中核を担い、SPODの立ち上げにも関わる。また、学生のリーダー養成にも関わり、愛媛大学リーダーズ・スクールや西日本学生リーダーズ・スクールの立ち上げを行った。2014年9月に追手門学院大学副学長に就任し、2017年4月から現職。学長補佐に加えて、FDの中核を担う教育開発センター長、学生リーダー養成を行う追手門学院大学リーダー養成コース長も務め、教員、職員、学生の能力開発に取り組んでいる。加えて、市民向けのリーダーシップ講座やキャリア形成支援を目的としたワークショップ等での講師歴も多く、松山市の経営者を中心とした志秦塾の塾長も務めている。専門は高等教育経営論(教育学博士)。

俣野 秀典(高知大学 地域協働学部/大学教育創造センター 講師)

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員、高知大学総合教育センター講師を経て、2015年より現職。放送大学非常勤講師(ファシリテーション入門)。

教育評価や教育方法を中心に、FDを含めた“Educational Development”に取り組む。「私たちは楽しみながら可能性に気づいていく」をモットーに、高等教育開発の専門家として、学生がもっと学べる授業/教職員がさらに学べるプログラムを開発・支援・実施しており、大学コンサル・教員コーチングの実績も多数ある。シンポジウムにはSPODフォーラム2014「大学人のためのリフレクション事始：人材育成研究・実践のフロンティアから考える」以来の登壇となる。

佐々木 奈三江(徳島大学 学術情報部図書情報課 総務係長)

平成3年3月岡山大学文学部哲学科卒 平成3年4月より徳島大学附属図書館勤務。利用者サービス、情報リテラシー教育担当が長く、講義と連携した授業を複数担当。また、学生協働として図書館内で活動する複数の学生団体の立ち上げに携わり、その後の活動をサポートしている。

■指定討論者

小林 直人(愛媛大学 学長特別補佐, 教育・学生支援機構 教育企画室長)

平成17年度より愛媛大学医学部(医学教育学講座)教授、平成21年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任、平成27年度より学長特別補佐(教育企画や教職員能力開発を担当)。

司会 宮田政徳(徳島大学総合教育センター 准教授)

■プログラム概要

SPODフォーラム2017の全体テーマは、「FeelingとThinkingをLearningにつなげる」です。昨今、文部科学省が高等学校だけでなく初等・中等教育(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)においてもアクティブ・ラーニング(能動的な学修)を強く推進する方針を打ち出しています。アクティブ・ラーニングという言葉が注目されてその必要性が叫ばれ、その手法ばかりに目が行ってしまい、学生が何を感じ、考え、学びにつなげているのか、ということが置き去りにされているような気がします。今年のフォーラムのテーマが意味するところは、「学生が何かを感じ、その結果何かをしようと考えた時、教職員がその気持ちをいかに学びにつなげてあげられるか」です。そこでこのシンポジウムでは、学生が感じ、考えた時、教職員はいかに支援できるのかについて、シンポジストから次の3つの論点について発表して頂きます。(1)どのような取組、教育、支援ができるのか、(2)そのためには教職員はどのような能力や心がけが必要なのか、(3)その能力を開発するにはどのような方法が考えられるのか、です。秦敬治氏には大学組織の観点から、俣野秀典氏には教員の観点から、佐々木奈三江氏には職員の観点から、それぞれ事例発表・報告をして頂きます。なお、当日は3名のシンポジストの実践事例の発表・報告の後、質疑応答およびパネルディスカッションを行う予定です。

■主な受講対象

教職員(SPODフォーラム2017に参加される全ての方)

■本プログラムの到達目標

1. 学生の学習支援を考える際、どのような手法、工夫、注意点があるのか説明できる。
2. 学生の学習支援を行うには、教職員にどのような能力や心がけが必要なのか説明できる。
3. 学生の学習支援を行うには、どのような教職員能力開発のアイデアがあるのか説明できる。

■日時・会場

日時:平成29年8月24日(木)15:30~17:30

場所:徳島大学常三島キャンパス